

# RCCP News Letter

第4号・Spring 2019

京都女子大学 地域連携研究センター

竹安 栄子センター長に聞く

## 2018年度の活動を振り返って

2015年10月に開設した地域連携研究センターは、今年3月で設立から約3年半を迎えます。今回は、取り組みや活動成果を中心に、センター長 竹安 栄子先生にお聞きました。

(以下、I:インタビュー A:T:竹安)

**I** 地域連携研究センターの柱になる活動として、「学まち連携大学」促進事業があげられると思いますが、まず、その活動についてお聞かせください。

**T** 本事業の根幹である「連携活動を教育課程として実施する。」という目的に向けて開設した「連携志向型プログラム」、すなわち「女性地域リーダー養成プログラム」において、昨年度までに開講した「連携活動入門」「地域連携講座」「産学連携講座」に加えて、今年度からは「連携課題研究」が加わり、当初計画した全ての講座が開講されたのは、今年度の成果といえるでしょう。「連携課題研究」の京都信用金庫の寄附講義を受講した学生からは、「学部では学べないような生きた社会について学べた。」「将来のライフプランを考える機会となり、今後の人生や生き方に大きな影響を受けた。」という嬉しい感想を聞くことができました。「連携課題研究」は今年度2クラス開講しましたが、来年度、さらに1クラス増え3クラスの開講となります。学生の授業アンケートでは、多くの講座で高い評価を得ていて、教育課程開設当初の目的を達成できたと嬉しく思っています。また、「女性地域リーダー養成プログラム」は、地域活動を単なる活動に終わらせることなく体系的な教育課程として構築することを目的として、2019年度入学生からは、副専攻科目として開講します。

**I** その他の主な取り組みについてもお話しいただけますか。

**T** 「学まち連携大学」促進事業のもうひとつの柱の事業として、学内の教職員に公募し、正課内外での連携活動に、費用面での補助を行う「学まち推進型連携活動補助事業」を立ち上げましたが、これも2年目に入りました。昨年度応募のあった9つのプロジェクトのうち8プロジェクトは、今年度も継続しており、新たに3つのプロジェクトが加わって2018年度は合計11のプロジェクトが立ち上がりました。この事業は、本学の資源を活用した社会貢献活動として、教員と学生が京都市内で連携活動を展開することを目的としています。息の長い活動を実現することを目指しています。昨年度から引き続き継続しているプロジェクトが多いことは、成果のひとつと受け止めています。また、多様な学科からの参加が見られ、学内で地域と連携した活動が広まってきていることも、大きな成果だと感じています。初年度は、東山区では、弥栄学区の高齢者を対象とした健康すこやか学級での「呼吸法」や「中国語講座」が主なものでしたが、今年度からは、貞教学区、修道学区、今熊野学区など、連携活動を展開する地域も広がりをみせています。また、活動を評価いただく声が地域から聞こえてくることは、本当に嬉しく思います。是非、継続して欲しいという連携先からの要望の声が聞かれるとともに、プロジェクトに参加した学生からも多くの学びを得たとの感想があり、まさに、Win-Winな関係が出来上がっているという点で、当初の目的を達成できているといえるでしょう。

**I** 今後、地域連携活動は、定着し、ますます広がっていきそうですね。

**T** 例えば、地域連携研究センターとして、設立当初から関わっている祇園新橋景観づくり協議会との連携活動は、観光公害の一例である「前撮り」の課題解決に向けて、撮影マナーの取り決めや、今後のしくみづくりを地域の方と共に考えるなど、関わる内容も深化してきています。また、先に挙げた補助事業のプロジェクト以外にも、本学の寮がある修道学区では、留学生が地域の一員として地区の運動会に参加し、地域からは若い力を得て、活気づき、盛り上がったと喜んでいただきました。このように、学内に連携活動が広がり、定着し、また深化していくことは、意義深いと思っています。

**I** その他にも、今年度の取り組みで、トピックス的なものがあれば、お聞かせください。

**T** これまで京都女子大学の社会人のための講演会として、学科・専攻等による公開講座が開催されていましたが、今年度から本学教員が自らの研究を一般市民に分かりやすく講演、あるいは実践する生涯学習講座を新たにスタートさせました。有料の3回連続講座ということで、当初、どの程度市民に受け入れられるのか案じましたが、定員超過の講座も出るなど好評を博しています。来年度は講座の数をさらに増やして開講する予定にしています。

**I** 今年度は、関西の女子大学としては初の「リカレント教育課程」を本学でスタートしました。最後に「リカレント」についてもお話いただけますか。

**T** 今年度は、「大学連携京都府リカレントプログラム」として、京都府、オムロン エキスパートリンク株式会社が連携し、講座を開講しました。8月からの基礎講座を京都ウイメンズベースで、10月からの発展講座を本学で実施することになりました。実施を決定してから準備の期間が非常に短く、また、関西では「リカレント」という言葉自体が浸透しておらず、果たして受講生が集まるだろうかと、不安の中でのスタートとなりました。本学卒業生は勿論、連携先企業にご協力いただき、案内チラシを発送したり、大急ぎでホームページを立ち上げたりと、何とかスタートに間に合わせることができました。今年度、1期生として20名の受講があり、この3月には、約半年間の課程を全ての受講生が無事、修了することが出来ました。人口減少という社会的背景と、さらに女性が自らの能力を活用し、豊かな人生を送ることを支援するためにリカレント教育課程を設置することは、関西の女性教育のパイオニア的存在である本学の使命と考えています。第1期生は、20代～50代まで幅広い年代層ですが、共に学ぶ仲間を得たこと、社会に出る自信となるスキルが身に付いたことを実感いただくことができました。また、この教育課程で社会と関わることへの意識が大きく変わった方もいて、社会に貢献したいという意識を持って、今、積極的に就業に向けて取り組んでいます。既に就職が決まった方も何人かおられます。リカレント教育課程の講師の先生方を含め、この事業に関係いただいた方々には、たいへん感謝しています。この課程は、来年度は、大学が独自に運営する教育課程として後期から開講予定です。詳しくは、ホームページなどを活用し、情報提供していきたいと考えています。

これからも女性教育に資する活動、連携活動と思っておりますので、引き続き、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 京都女子大学 学内公募型補助事業成果報告会を開催しました。

2月25日(金)に本学図書館交流の床1Fホールと2Fカフェスペースに於いて、学内公募型補助事業の成果報告会を開催しました。学まち推進型補助事業の成果報告会を、学生による「らっしつよチャレンジ」や「学長採択型課題解決プロジェクト」の成果報告会と合同で開催するのは、初めての試みでしたが、本学と包括連携協定を結ぶ行政、企業、NPO 法人を中心に、連携活動をしている地域の方など100 名以上の方に出席いただき盛会となりました。成果報告は、スライドを使用した発表とポスター展示による発表の2つの形式で行いました。

出席の企業からは「学生さんの企画、意見を取り入れた商品開発について発表を聞き、自社でも是非、取り組んでみたいと思った。」「京都女子大学では、様々な連携活動に取り組みをされていることを改めて知り、感心した。」と多くの賛辞をいただきました。また、地域の方から、「学生さんが地域活動に参加いただくと、地域は活気づく。ただ、ボランティアに参加するだけではなく、学生さんには、地域課題を知っていただき、地域文化を感じ取っていただけるように継続していきたい。」と貴重な意見をお伺いできる機会にもなりました。

学まち推進型補助事業の詳細は、地域連携研究センターより発行の「Annual Report 2018」にも掲載します。



▲成果報告会の様子



▲ポスターやディスプレイによる成果報告

## 履修証明プログラム修了式を行いました

本学では、平成 27 年度より学校教育法の定めにもとづき、大学での一つのまとまりのある学習プログラムとして履修証明プログラムを開設しています。

当該プログラムは、本学の授業科目とプログラム独自の講習を組み合わせることで履修することによって、体系的な知識や技能の習得を図るもので、その成果として京都女子大学が学校教育法第 105 条の規定にもとづく履修証明書を交付しています。平成 30 年度は「仏教プログラム」「京都の歴史と文学プログラム」「京都日本語案内マイスター養成コース（初級）」「京都英語案内マイスター養成コース（初級）」「京都英語案内マイスター養成コース（初級）」「中国文化と言語プログラム」の 5 講座に 8 人の受講生が集まりました。

受講生からは、「先生からよくご指導いただき、じっくり勉強することができた。また、学生と学ぶことが励みになり、楽しかった。毎回、一番前の席で授業を聞いていた。」「家庭の事情や体調不良で欠席することがあったが、先生からフォローしていただき、最後まで履修することができた。学生が大変真剣に勉強していて、大いに刺激となった。」「京都の地で歴史や文学を学ぶことができ、幸せだった。」など、学びの場が持てたことを喜ぶ声が多く寄せられました。

### 2018年度 履修証明プログラム

- 仏教プログラム
- 京都案内マイスター養成プログラム
  - (ア)京都英語案内マイスター養成・初級コース
  - (イ)京都日本語案内マイスター養成・初級コース
  - (ウ)京都マイスター養成・初級コース
- 京都の歴史と文学プログラム
- 中国文化と言語プログラム



▲修了式の様子



## 伏見酒蔵での酒造り体験を実施しました

1年のうちで、最も寒いとされる2月は、伝統的な酒蔵では酒造りの最盛期となっています。寒い時期に行くことで、細菌が少なく状態のいい日本酒ができ、すっきりとしたキメの細かい味になるといわれています。

本学と包括連携協定を締結している伏見の酒蔵、招徳酒造株式会社で、本年度も第1期、第2期と2回の期間を設けていただき、酒造り体験を実施しました。

第2期の体験では、リカレント受講生の参加もあり、学生とともに酒造りに挑戦しました。

参加した学生からは、「京都の大学に通うからこそできる普段はできない体験ができ、お米一粒を大切にしている酒蔵の方の思いを知ることができた。楽しい3日間で、参加して本当に良かった。」「体験した学生のほとんどが、『思ったよりたいへんだった』と答えているのは知っていたが、雪が降るほど寒い中での作業は、想像した以上に力も使い、たいへんな部分があった。しかし、無我夢中で働くことができた、最高の3日間が過ぎたと思う。」と貴重な体験ができたこと、酒蔵への感謝の気持ちを述べる感想が寄せられました。



▲招徳酒造の前にて



◀▲酒造りの様子

## 平成30年度 大学連携 京都府リカレントプログラムの修了式及び成果発表会を行いました

2月4日(月) 本学でのリカレントプログラム修了式及び成果発表会を実施しました。

第1期リカレント受講生では20名中8名(40%)の保育サービス希望がありました。「保育サービスがあったから、受講を決心できた。」「初めての親子分離が最初は少し不安だったが、受講中に経験でき、再就職を前向きに考えられるようになった。」など、利用者の意見から、子育て中の受講生には、保育サービスが重要であることがわかります。修了式には、3名のお子さまと一緒に参加され、中には、おもちゃや絵本を楽しみに来てくれた子もいたようです。

午後からの成果発表会では、京都府や企業関係者も参加する中で、受講生一人ひとりが、リカレント教育課程で学んで良かった点、今後のキャリアプランや夢について発表を行いました。「受講して自分のやりたいことが見つかった。」「社会に出て、自分の持つ能力を発揮したいという自信がついた。」など、今後の就業に向けて意欲的な意見が多く聞かれました。



▲修了式の記念撮影は、お子さまも一緒に

◀リカレントの様子

## 「地域女性リーダー養成プログラム」は、 2019年度から副専攻プログラムとして開講します。

2017年度から開講している女性地域リーダー養成プログラムは、各学科・専攻で修得した専門性に加えて、地域課題の発見能力、問題解決能力、実践力を備えた行動できる女性、地域リーダーとなりうる女性の養成を目的としています。これまで受講した学生からは、「地域の中での自分の役割について考えるようになった。」「これからのライフプランを考える機会となり、人生設計が変わった。」「具体的な就活の目標が定まった。」などの感想が寄せられました。

### ■2019年度開講科目一覧

科目名	担当	開講時期 曜日・講時	副題	概要
連携活動入門	竹安 栄子	後期 火2	連携活動事始め ～連携活動にチャレンジ～	連携活動に従事するにあたって、知っておくべき基礎的な事項や身につけておくべき倫理事項、さらに多様な連携活動の実態について講義する。
地域連携講座 B1	各地方自治体 (中道 仁美)	前期 火3	地方自治体の取り組みを学ぶ	大学が就職協定を締結している行政の担当者から各県の現状と施策を学び、地域社会の担い手として女性が果たす重要性を理解する。11県の地方自治体担当者が授業を担当。
地域連携講座 B2	京都市・京都市の 企業及び団体 (竹安 栄子)	前期 月2	京都の社会と連携活動	行政や企業、各種組織の実務担当者をゲストスピーカーとして招き、それぞれの分野からみた京都の社会や産業の実態を講じてもらうオムニバス形式の授業。京都市の姿と京都市が直面する課題を多角的視点から理解し、かつ課題解決に向けて学生自身が地域貢献活動に主体的に取り組むよう学生の行動を促進する。
産学連携講座 A1	株式会社三井住友銀行 (寄附講義)	後期 水2	持続可能な社会の実現を果たす 民間金融機関の役割	住友銀行とそのグループ会社での事業内容を素材にその仕組みを解説しつつ今後の社会生活や資産形成に必要な知識を習得する。
産学連携講座 A2	野村證券株式会社 (寄附講義)	後期 木4	基礎知識としくみの理解	激変する日本の資本市場の全容と投資のリスク&リターンの考え方、株式投資・債券投資・ポートフォリオ運用・外国為替相場など証券投資における重要テーマを解説する。
産学連携講座 A3	阪急電鉄株式会社 (寄附講義)	後期 金4	民営鉄道事業と地域社会	阪急電鉄グループの事業内容を素材に、地域や市民生活にどのように関わり、その発展に寄与してきたかを解説する。
産学連携講座 B1	株式会社朝日新聞社 (寄附講義)	前期 火5	新聞を通じて現代社会の諸問題について理解を深め、社会に対する問題意識を養う	現役の新聞記者が様々な社会問題をテーマに複数回講義する。また、当日の新聞を使って社会の問題を考える。学生は各々の意見を小論文として提出し、講師が添削する。
産学連携講座 B2	大阪ガス株式会社 (寄附講義)	前期 木3	エネルギーを通してみる 社会変化と環境対策	ガス・電気的基础知識、国のエネルギー施策、時代背景等について解説しながら、身近なエネルギーから環境問題、社会情勢について考える機会とする。
産学連携講座 B3	連合京都・京都中小企業 家同友会・京都信用金庫 (寄附講義)	前期 水2	女性が働くということ・ 働く者の権利を学ぶ	労働組合や企業、各種組織の実務担当者をゲストスピーカーとして招き、それぞれの分野からみた働くことに必要な基礎知識について学ぶ、オムニバス形式の授業。
連携課題研究	桂 まに子	通年 集中講義	連携課題を発見し、情報技術を用いた問題解決策を考える	デジタル時代に地域や企業が抱える連携課題について考え、研究テーマを決めて、情報技術(Wikipedia、OpenStreetMapなど)を活用した問題解決を図る。
連携課題研究	京都信用金庫 (寄附講義)	通年 集中講義	女性起業家と考える、 「創業しやすい京都」	京都で活躍する女性起業家との対話や、事業の見学・体験といった場を通して「京都で創業するうえでの課題」を発見し、「創業しやすい京都」とはどのようなものかを考察する。
連携課題研究	宮原 佑貴子	通年 集中講義	京都の伝統染織産業の技術を体験し、現代に活かす	京都の伝統的地場産業である着物染織の高い技術を自ら体験し、知識を深め、それらの魅力を広く伝える手法を考え実践する。

### 編集後記

News Letterの発行も今回で4号目となりました。当初は、地域連携研究センターについて、主に学内で知っていただくことを目的に発行しましたが、今では、記録写真を撮影していると、連携先企業や地域の皆さまから、この活動を記事で紹介されますかと聞かれることも多くなり、学内だけでなく広く読まれていることを嬉しく思います。地域連携研究センターの活動は、Annual Report 2018でもご紹介しています。(Annual Report 2018は4月以降に、連携推進研究センターのWEBサイトに掲載予定。) (M.O T.I)